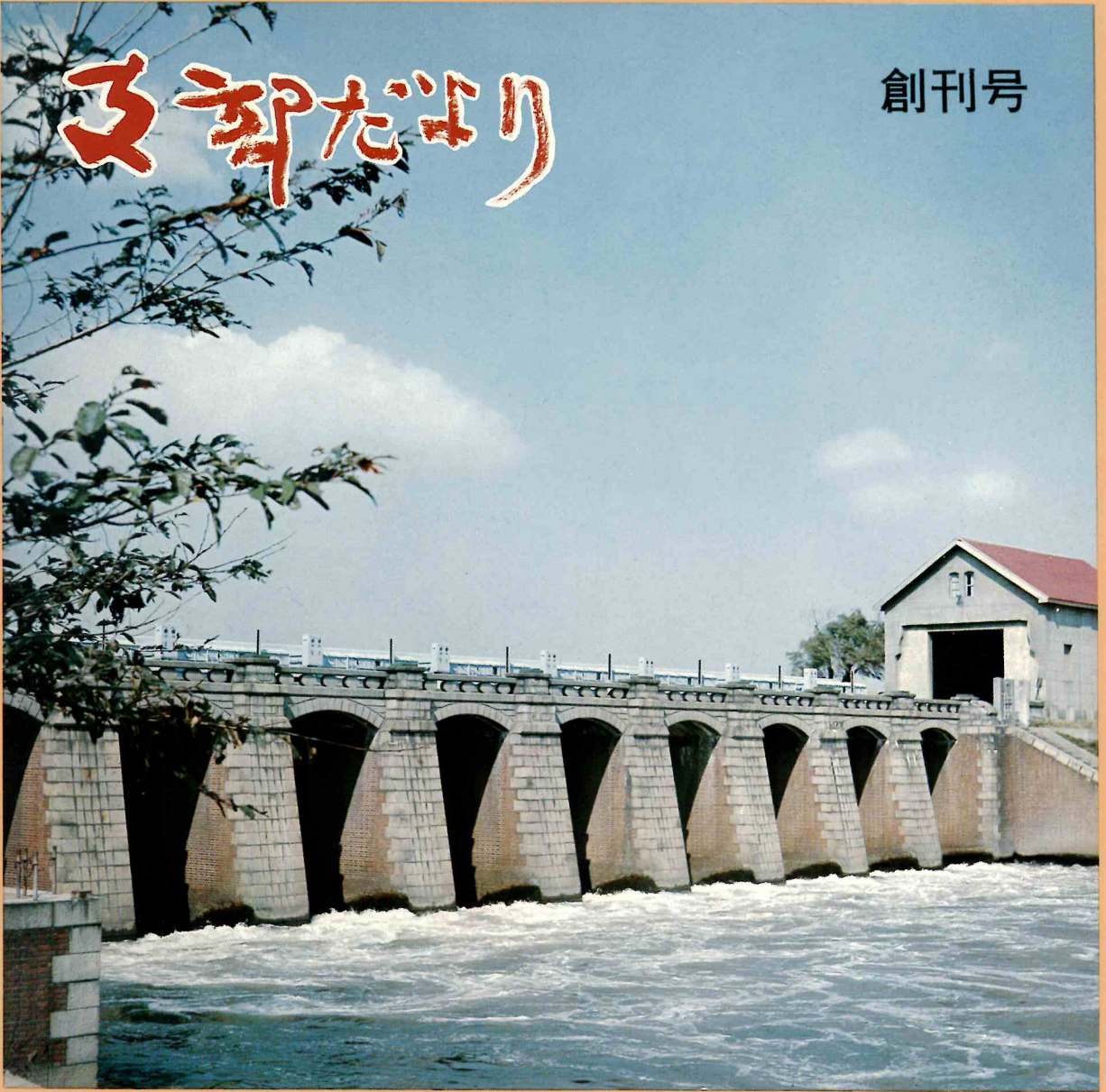


支部だより

創刊号

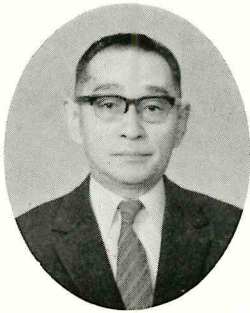


表紙解説 毛馬洗堰は、明治29年から始められた淀川改良工事において、旧淀川分派点に建設され、同43年1月、工費14万円をもって竣工した。堰は巾3.64mの水通しに角落材を人力で落込む構造となっており、堰の基礎は我国最初の煉瓦積ケーソンである。その後昭和2年と37年に補修されたが、今回改訂された淀川水系の改修計画により、毛馬洗堰は全面的に改築されることとなった。

目次	「支部だより」創刊に当って	2
	支部45年の歩み	3
	行事報告	4
	最近の土木工事現場の紹介	6
	関西地区土木工学界の歩み	9
	事務報告	10
	会員通信欄	12
	編集後記	12

“支部だより” 創刊に当って

土木学会関西支部 支部長 柳瀬 珠郎



土木学会関西支部は、土木学会最初の支部として昭和2年10月31日に誕生し、本年45周年を迎えるに至りました。思えば当支部今日の発展は、土木学会本部と協調のもと、土木技術の向上に肝胆をくだかれた先人先輩のたゆみない御努力の賜物であり、感謝の念まことに切なるものがあるのであります。

さて、記念すべき年を迎えるに当って、会員の方々の心のふれあいを一段と深めるとともに、支部の動きを充分知っていただくために何か適当な方法はないものかと役員諸氏と御相談をしておりましたが、今回“支部だより”を編集し、行事案内と一緒にみなさんのお手元にお届けしようということに議がまとまりました。

“支部だより”の内容は、最近の支部活動の状況や、会員の動静と声を集録するとともに、最近の代表的な技術・工事・工法などの紹介をするものでありますが、いずれにせよ、この“支部だより”を会員の方々の“声の広場”として有効に御利用いただき、親睦のためにも大いに役立ててもらえば幸いと存じます。

なお、近年大きな社会問題となってきました生活環境と工学の調和などを中心に各種の問題をとりあげて、支部の伝統を守りながら一層支部活動を活発に進め、会員のための支部づくりに微力を注ぎたいと考えております。一層の御協力、御支援を紙上をおかりしてお願い申し上げます。

おわりに、題字“支部だより”は、元支部長の高西敬義先生にお願いし、御揮毫をいただきました。御厚意に深謝するとともに、本紙の執筆、編集に御苦労された関係の方々に対し厚くお礼を申し上げる次第であります。

支部45年の歩み

昭和2年10月の当支部創立以来42年までの歩みは、同43年に刊行された「関西の土木100年」中の“40年小史”に詳述されています。抜書的にその要点のみを記述すれば次のようになります。

まず当支部の創設に尽された多くの先人達の努力のあとを振り返って、創設当初平民的で若々しい気風が重んじられたことが記されています。また創設当初の役員組織は本質的には現在と同様であり、支部区域も当初の京阪神3都市中心より順次現在の区域に広まり、予算の基礎も次第に得られて、昭和7,8年頃には定期的な委員会などが開かれるようになりました。これより昭和10年代に入って支部の活動はますます盛んとなり、同12年4月には土木学会最初の第1回年次学術講演会が京都帝大で開催され、このような活況は終戦前の昭和19年頃まで続いたようでありました。

昭和20年の終戦後より同32年頃までは、社会的・経済的苦境の中にありながらも、多くの先輩方によって今日の支部の地固めの努力が続けられました。そして昭和33年頃より同42年頃にかけて支部の活動は急速に拡大され、この間、本部に関東支部を設けること、会長・副会長・

理事を全国的な視野で選ぶべきことなど、本部の組織・運営面にも発言して、それらが順次実現されています。いずれにしても昭和25,6年頃より41,2年頃までの間は、支部としては苦しいながらも一応結果的にはバランスのとれた形の発展であったろうことが、図-1よりうかがい知ることができます。

以上、40年小史をもととして昭和42年頃までを簡単に振り返りましたが、創設以来平民的で若々しい気風が尊ばれ、常に一貫して関西土木界のためという意欲に燃え、また本部に主張すべきは主張して実行に移させてきたという脈々たる支部の強い自主性が再確認され、誠に感銘深いものがあります。その後の昭和43~47年なる最近の約5か年間は図-1にもみられるように、社会的・経済的な影響もあって支部としてはあまり順調でなく、むしろ厳しい時期にあるといえましょう。この5年間の目ぼしいトピックスのみを挙げればほほ次のようであります。

まず昭和43年度には関東以外からの最初の会長として石原藤次郎会長の実現をみ、昭和44,45年度には米谷栄二副会長が当支部より推されて実現しました。昭和45年度には土木学会全国大会が大阪市内で盛大に開催され、同年多年の懸案であった支部の現事務所建設が船場センタービル4号館内に実現しました。引き続いて昭和46,47年度には支部の賛助会員の増強ならびに支部規程類の整備のための努力が払われ、昭

和47年度からは調査研究・委託研究ならびに“支部だより”がスタートしつつあります。

このように当支部の活動は最近ますます活況を呈していますが、学会支部は何を目指すべきか、また学問と実際、さらに人間生活と環境保全などの問題にも取りまかれ、特に財政面と事務運営面でも厳しい現状にあります。こうした中であってよりよい支部、より会員のための支部を目指しての努力が続けられており、会員各位の一層の御協力・御支援が要望されています。

〈文責 後藤 尚男〉

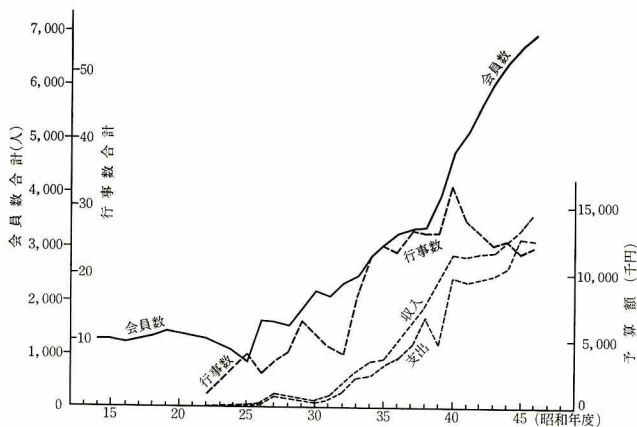


図-1 関西支部の会員数、行事数、予算の変遷

行事報告

支部は、会員のみなさんの集いの場所として、また技術、知識の交換の場として共に伸びてゆきたいと考えており、このため種々の行事を計画し実施しております。

行事は、純学問的なとらえ方、実務に則したとらえ方など、土木工学の分野が広いがゆえにそのポイントのおき方に苦勞しておりますが、特に基礎的、入門的なものを中心とした講習会に力を注ぎ、会員の業務に直結する問題の基礎的理解を深めることにしました。去る11月、「掘さく、土留工事の基礎的な問題」に関する講習会を開催して、都市における地下工事の諸問題に取り組んだのはこのあらわれであります。また、来る2月には、「施工計画、管理の基礎」的な問題を予定しており、この種の計画を、長期的な企画として遂次推進してゆきたいと思っています。

47年度において実施したのも、また今後計画しているものについて概要をまとめると次のようです。

1. 今日までの行事のあらまし

① 47.5.17 支部第45回通常総会

新しく柳瀬支部長が就任され、商議員、評議員の紹介が行われました。

② 47.6.5 支部年次学術講習会

従来、日曜日に実施していましたが、新しい試みとして週日を選びました。演題220、参加者527名の多きに達しました。

③ 47.6.27~28 講習会

「水工学におけるランダム事象と最適化に関する諸問題」について。

④ 47.7.26 講習会

「鉄骨鉄筋コンクリート設計基準」について。

⑤ 47.9.8 見学会

阪神高速道路南港連絡橋現場を見学、大型ケ

ーソン、鋼管井筒などの基礎工事の状況の説明を受けました。

⑥ 47.10.13~14 講習会

「材料強度と信頼性設計」について。

⑦ 47.10.17 懇話会

中堅土木技術者を対象とする企画で、長スパン橋梁建設に関する第3回の問題提起として、前年の下部工の施工に引きつづき、今年は上部工設計上の問題をとりあげました。

⑧ 47.11.10 兵庫地方講演会

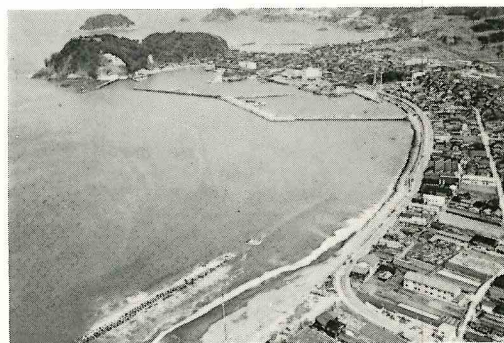
行事の多くが京阪神地区に集中することとなり、この地域以外の方のご参加がむづかしい面が多々ありますので、支部としても、広く会員のみなさんと何らかの形で結びつきを図りたく、企画を考えています。昨年の福井地方講演会につづいて、今年は豊岡市で講演会を開催し、但馬、丹後などこの地方在住の方のご参加を得ました。

⑨ 47.11.28 基礎的入門的講習会と映画会

都市における地下工事で当面する諸問題のうち、地盤調査、薬液注入、土留工、地下水低下法などをとりあげ、「掘さく、土留工事の基礎的な問題」として講習会を開催しました。この講習の内容が、みなさんの現場に還元され、更によりよい技術の開発に資するものと期待しています。また、今回は講習会のあとを映画会に切り換え、行事の充実を図りました。

⑩ 47.11.11~12.2 学生映画会

各地域の学校からご要望もあり、和歌山1校、大阪8校、京都2校、福井2校、兵庫2校計15



香住海岸離岸堤(1.⑧兵庫地方講演会資料より)

校を巡回して映画を上映，学生諸君と学会とのつながりを深めました。

⑪ 47.12.5 懇話会

⑦に記載したのと同様，中堅技術者を対象としたシリーズ的な話題提供企画で，都市計画に関する第3回目に当たります。第1回の都市交通，第2回(昨年)の都市生活環境に引きつづいて，欧米とわが国の都市計画の対比のなかに都市問題解決の方向を見出すべく，種々の提案が行なわれました。

以上のほか，研究会，学生見学会なども実施しており，他の学会や協会とも連絡を密にして，協賛，後援の形で行事を推進してきました。

2. 今後計画している行事

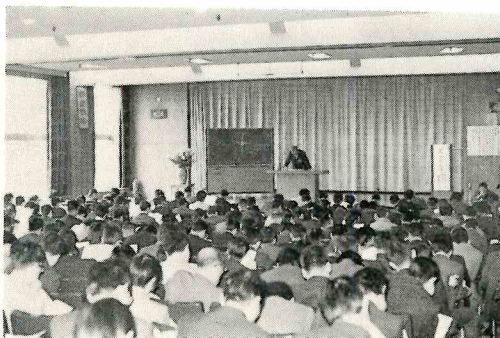
すでに述べましたように，行事は可能の限り長期的展望にわたって，計画的に関連づけてゆきたいと思っており，現在，実施計画のまとまったものの概要は次のとおりです。

① 48.1.18 海外事情講演会と懇親会

最近海外経験をされました方々に，新しいニュースやあちらでのわが国土木技術の発展などについてお話し頂きます。講演頂く方は，土木工学の分野で中堅としてご活躍の方ばかりですので，会員特に若い会員の方の参加をお待ちしています。

会場：好文クラブ 時間：午後3時～5時
参加費：無料

また，この講演会終了後会員懇談会を開催し



47.11.28 基礎的入門的講習会会場風景(大阪)

ます。新春のことであり，会員のみさんの多数ご参加を希望します。(時節柄，参加費1,200円を頂きます)

② 48.2.13 基礎的入門的講習会

支部行事の中心としてこの種の講習会を開催してゆく考え方については，すでに説明したとおりですが，昨秋の土関係にひきつづき，今回は工事計画，施工管理の問題をとりあげ，「施工計画・管理の基礎」として企画しました。

会場：大阪科学技術センター 時間：午前9時20分～午後4時40分 参加費：1,600円

③ 48.2.20 研究会

構造物・施設の調査に関する研究会として第4回に当たりますので，今回は河川工作物をとりあげました。「河川工作物の調査に関する研究会」と題し，流路，堤防，堰などについて発表して頂きます。

会場：大阪科学技術センター 時間：午後1時～5時 参加費：無料

④ 48.3.15～16 講習会

構造工学講習会として，長大橋りょうの諸問題をテーマにします。本四連絡橋など長大橋の計画，施工について，みなさんの関心も深いことと思います。

会場：大阪科学技術センター大ホール 参加費：3,800円

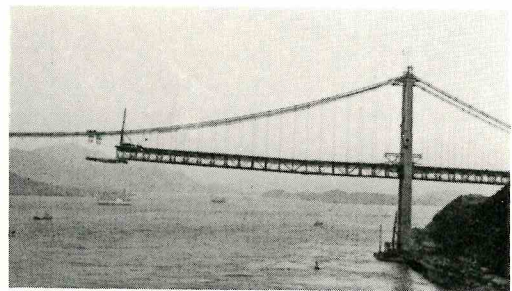
⑤ 48.6.1 支部年次学術講演会

多数の方の研究発表とご参加を希望します。

会場：大阪市立大学工学部

講演申込〆切は2月2日，原稿〆切は4月10日で，個人研究発表時間は1題10分とします。

<文責 志茂山保夫>



架設工事中の関門大橋(2.④講習会資料より)

最近の土木工事現場の紹介

日本列島改造論議も白熱化して来ましたが、最近の土木工事はますます大型化してきています。

今回から関西における最近の土木工事を紹介していくことになりましたが、紙面の都合で号を追って順次各部門毎の掲載となりますので、よろしくお願い致します。

1. 昭和47年度 関西地区における土木事業の概要

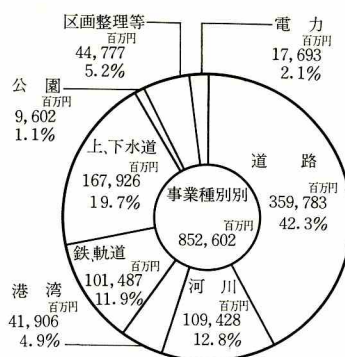
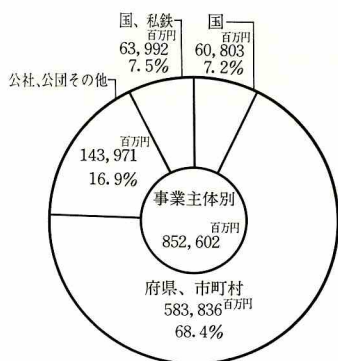
各事業主体の御協力によりまして、47年度の事業予算を調査することができました。何かの参考になれば幸甚です。

(単位 百万円 建設費中上段は事業件数)

	国			府 県, 市 町 村			公 団, 公 社, そ の 他		
	建設費	その他	計	建設費	その他	計	建設費	その他	計
道 路	65 31,665	9,138	40,803	3,426 198,761	26,117	224,878	19 90,578	3,015	93,593
河 川	19 18,415	982	19,397	1,806 82,546	7,253	89,799	—	—	—
港 湾	1 460	3	463	351 38,674	2,769	41,443	—	—	—
鉄 軌 道	—	—	—	18 21,878	1,375	23,253	5 19,332	—	19,332
上, 下 水 道	—	—	—	334 150,608	17,308	167,916	—	—	—
公 園	2 140	—	140	228 8,233	1,228	9,461	—	—	—
区画整理等	—	—	—	60 26,718	368	27,086	56 13,353	—	13,353
電 力	—	—	—	—	—	—	51 16,353	1,340	17,693
計	87 50,680	10,123	60,803	6,223 527,418	56,418	583,836	131 139,616	4,355	143,971

	国, 私 鉄			合 計		
	建設費	その他	計	建設費	その他	計
道 路	7 509	—	509	3,517 321,513	38,270	359,783
河 川	2 232	—	232	1,827 101,193	8,235	109,4283
港 湾	—	—	—	352 39,134	2,772	41,906
鉄 軌 道	57 57,454	1,448	58,902	80 98,664	2,823	101,487
上, 下 水 道	4 8	2	10	338 150,616	17,310	167,926
公 園	1 1	—	1	231 8,374	1,228	9,602
区画整理等	13 4,3201	18	4,338	129 44,391	386	44,777
電 力	—	—	—	51 16,353	1,340	17,693
計	84 62,524	1,468	63,992	6,525 780,238	72,364	852,602

- 1) 港湾の中に海岸と、空港を含めた。
- 2) 河川の中に砂防、治水用ダム、利水用ダムを含めた。



2. 道路・鉄軌道部門の工事現場紹介

最近の世情で、とかく論議の的となっている道路、鉄軌道を取上げました。道路は騒音公害で建設反対、鉄軌道は線路を伸ばす毎に赤字が増えるという受難の時代ですが、土木技術者はこれらの問題を真摯にうけとめ、新しい技術の開発と社会の変化に対応しなければならないと思われまます。

・第二阪和国道 (建設省)



供用開始をした貝塚地区

区 間 堺市～泉南郡阪南町
 延 長 約 33 km
 巾 員 32 m (6車線)～25 m (4車線)
 全体事業費 約 470億円
 進捗率 44% (47年度未予定)

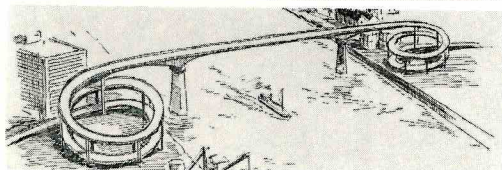
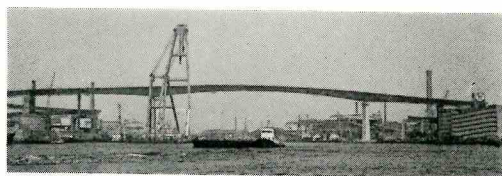
第二阪和国道は大阪と和歌山を結び、国道26号に替る路線として昭和38年度から着手しました。

当初から区画整理の手法を前提として着手しましたが、地元の努力にも拘らず難行しています。まだ沿道には弥生時代の遺跡が点在し、膨大な発掘調査も行なっています。

現在、堺市内 2.7 km と、貝塚市内 4.8 km を供用開始していますが、47年度中には、全体の50%を開通させるべく努力しています。

・千本松橋<仮称> (大阪市)

工事箇所 木津川 (西成区、大正区)
 橋 長 主要橋梁部 323.5 m, 高架坂路<ループ>部 920 m
 有効巾員 車道7.5m, 歩道2.25m (主橋梁部)
 構造形式 3径間連続鋼床版箱桁
 径 間 河川中央部 150m
 橋梁の高さ 高水面より桁下まで 34m, ループ部半径 37m
 事業費 約 25億円
 施行年度 昭和41年度～47年度



(上) 桁の架設を終った千本松橋 (下) 完成予想図

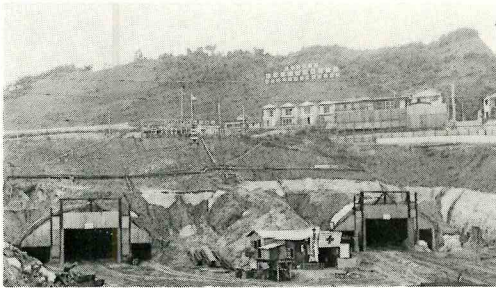
西大阪の臨海工業地帯は大型船舶が出入りするため無橋地帯となり、このため交通手段として渡船施設を設けています。

これら渡船施設の中で、最も利用の多い木津川河口部の「千本松渡し」に橋を架けています。船舶の通行により橋面を高くし、取付坂路をループ状にしたのが特徴です。

・中国高速道路（日本道路公団）

高速自動車国道中国縦貫自動車道は、吹田市を起点として、宝塚市、滝野町、津山市、三次市、山口市等の中国地方を縦貫して下関市にて関門自動車道と結ばれる延長 539km、総事業費 3,500億円 の大事業であります。これが完成しますと、近畿圏と中国地方、九州地方を結ぶ大動脈となります。

断面構成は、池田～神戸北インターチェンジ間 6 車線、神戸北インターチェンジ以西は、4 車線となっています。

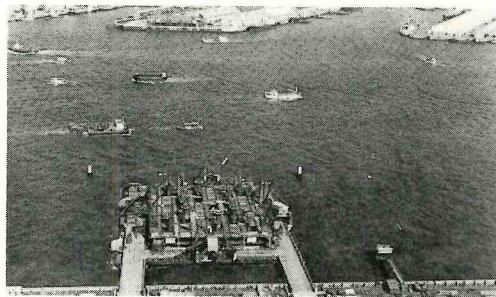


工事中の宝塚市米谷トンネル

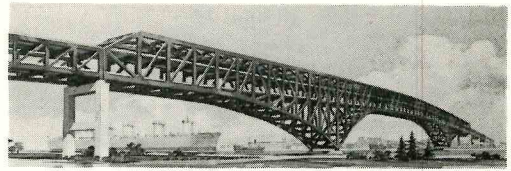
ここに紹介する米谷トンネルは、大断面の山岳トンネルで片側 3 車線を 2 本並べています。

特徴としては、断面が扁平であり、土覆りが非常に浅く、住宅専用地区の工事である事で、地質も悪いようです。

・南港連絡橋（阪神高速道路公団）



基礎工事中の南港連絡橋



南港連絡橋完成予想図

路線名	大阪市道高速道路大阪湾岸線
区 間	大阪市港区晴～住吉区南港線
延 長	本線部約 1.9km, ランプ部約 2.7km
総事業費	約 350億円
工 期	昭和45年度～48年度
型 式	ゲルバートラス（ダブルデッキ）
中央径間長	510m
巾 員	18.75m, 8車線（4車線2層）
桁下高	OP+51.5m

将来の大阪湾岸道路の一環として南港埋立地と港区を結ぶ長大橋で、4万屯級の大型コンテナ船の航行も自由にでき、ゲルバートラス橋としては世界で3番目の長大橋になります。

・国鉄湖西線（日本鉄道建設公団）



長等山ずい道

建設区間	東海道本線山科～北陸本線沓掛
線路延長	76.6km
線路規格	甲線、復線、電化
最急勾配	10%
橋 梁	310箇所、32.2km
ずい道	22箇所、14.7km
総事業費	619億円
進捗率	約80%（昭和47年度未予定）

湖西線建設工事は、現在最盛期をむかえています。過密な東海道本線に余裕を与え、また北陸方面への距離も短かくして、裏日本への輸送力増強に大いに役立つこととなります。昭和48年度を完成目標として鋭意努力しています。

<文責 川畑 博信>

関西地区土木工学界の歩み

標題について小文を書けと命ぜられ、分不相応なことだと思いつつも頭に浮んだのが昭和43年、関西支部創立40周年を記念して刊行された「関西の土木100年」であります。当時の河村支部長の序文にもあるように、「でかいことやってこましたれ」という関西人特有の気質が、土木事業においても、幾多の先駆性をもたらしたことが随所に読み取られます。しかし、それに引続く1970年代、技術、経済、社会の加速化する変化、価値観の多元化しつつある時代を、土木技術者としてどのように受けとめてゆくであろうか、それほどその後の4年間の事業規模の拡大は目ざましく、また同時に多くの問題が提起されている感が致します。

「関西の土木100年」以降の歩みとして、まず、万博関連事業を起点とするものを挙げねばなりません。また、万博のテーマであった科学技術と自然、および人間社会との調和がいまや大きな模索の指標となっているのも意義深いものがあります。関連事業としての交通網の整備において、道路の総延長は470kmに及び、近畿、および中国自動車道などの高速道路、中央環状線、御堂筋線、築港深江線などの幹線道路、阪神高速道路公団の関連路線の供用が開始されました。一方、大阪空港の整備、地下鉄御堂筋線、谷町線の開通、また、それらと私鉄の相互乗入れという新しい形態が生まれました。技術的にも、斜張形式の豊里大橋、神戸—西宮線のピルツ式PC橋など、記憶に新しいところあります。

次に、環境整備の点では、広域下水対策、内水対策としての寝屋川改修事業が進められ、また、大阪高潮対策事業として、安治川など3河川に、機械基礎としてのきびしい条件を考慮したアーチ形水門が完成しました。なお、電力関係では原子力発電のほかに揚水発電所の建設に視点が向けられております。

港湾では、大阪湾整備計画の発端としての堺臨海開発事業が完了し、南港、ポートアイランドなどの大規模造成が進められ、関連施設として、目下大形下部工が完成し、また、トラス形式としては世界3位の径間長を有する南港大

橋、先駆的な大ブロック架設工法を採用した神戸大橋などユニークなものが見られます。

山陽新幹線新大阪—岡山間工事も最近の大きなプロジェクトでありました。特に、その死命を制するといわれた、六甲山地の破碎帯でのトンネル工事は、この分野における1つの記念碑的なものとなっております。また、PCプレキャストブロック工法による加古川橋りょうも注目されるものであります。

ところで、万博以来の事業の主な特徴として、都市再開発の機能面における追求、施設の大形化、工事のスピード化などが見られますが、一面、今日ではもはや日常語となった公害、開発と保存など、多くの問題に直面しております。

今後の動向としては広域化、多様化などが挙げられます。また、基幹的な巨大プロジェクトとしての本州四国連絡橋の架橋、大阪湾整備、琵琶湖総合開発計画などが進められており、技術面でのより高度な開発、大形化、機械化、省力化などが望まれると同時に、社会環境の変動に対応できるトータルシステムとフィードバックの系の模索に視点が向けられているといえます。

関西支部ではこのような現状を踏まえ、数多くの行事が企画され、その内容も多面化しつつあり、他学会、協会との協賛も活発であります。

今後、会員の方々の支部に対する関心がさらに高まることを期待したいと思います。ある意味では学ぶべき先行指標が失われ、試行錯誤をくり返す革新の時代において、地域社会の創造的活動への参加は意義あることでありましよう。

人類は太古より歴史のほとんどを「狩」の中で過し、そのメカニズムは遺伝子の中に継承され、環境の意識、反応の仕方にいたるまで、その痕跡が深く刻まれているといわれております。自然への愛着や都会の盛り場など、多面的ではあるがその1例でありましよう。自然に手を加え、新しい価値をつくりあげる歩みにおいて、人間の本性と環境との間で生れる人間性について考えさせられるものがあります。

<文責 岡村 宏一>

事務報告

お答えします

1. 土木学会はいつできたか.....

土木学会が発足したのは大正3年9月で、初代の会長は古市公威氏であり、2年間会長をつとめられました。

土木学会関西支部は、ずっと遅れて昭和2年10月に作られ、初代支部長には内務省大阪土木出張所長(現在の近畿地方建設局長)であった真田秀吉氏が就任され、1年ごとに交替するルールに決めました。

当時の関西支部事務所は、大阪市北区堂島中町の中央電気倶楽部の内にありました。

2. どのようなことをやるか.....

行事案内の欄にのべられているように、数多くの催しを行なっています。おおまかな対象と内容を列挙します。

- ① 研究者のために 年次学術講演会・研究会
- ② 研究者や技術者に 外人講演会・海外事情講演会
- ③ 技術者に シンポジウム・懇話会・地

方講演会・見学会

- ④ 初心者に 映画会・見学会・講習会
- ⑤ 学生に 学生見学会・学生映画会
- ⑥ 賛助会員に 委託研究制度・研究委員会
- ⑦ その他 懇親会ほか

このほかにも、ご希望をとり入れる計画ですから、関西支部事務局までお申し越し下さい。

3. 会員は何人ぐらいか.....

土木学会に加入している人は、全国で約2万6千人ですが、そのうち関西支部(大阪府・京都府・兵庫県・和歌山県・奈良県・滋賀県・福井県)に属する人は、あなたを含めて約5,400人です。関西支部所属会員の内訳は図-1のとおりです。

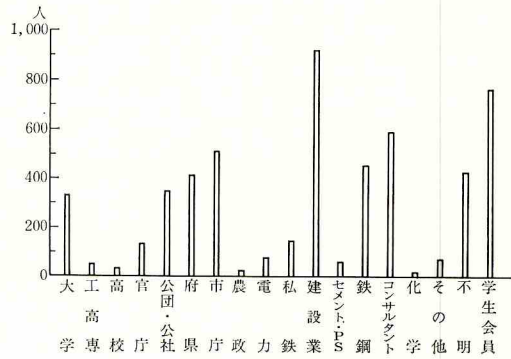


図-1 業種別人数

表-1 職場別規模

人数	略称
101名以上	京都大学・阪神高速・大阪府・兵庫県・大阪市・神戸市
51～100	近畿地建・国鉄・関西電力・大林組・奥村組・日立造船・川崎重工・片山鉄工・中央復建コン・日建設計
31～50	神戸大学・大阪市大・三港建・京都府・滋賀県・京都市・京阪神急行・鹿島建設・鴻池組・熊谷組・神戸製鋼・新日本技術コン
21～30	大阪大学・大阪工大・日本道路公団・水資源公団・和歌山県・福井県・近鉄・大成建設・間組・不動建設・フジタ工業・東洋建設・久保田鉄工・三菱重工業・東洋技研コン・修成建設コン・建設技術研究所
16～20	関西大学・阪神外貿公団・奈良県・南海電鉄・京阪電鉄・佐藤工業・住友建設・青木建設・飛鳥建設・新井組・高田機工・横河橋梁・パシフィックコン・オリエンタルコン
10～15	立命館大・近畿大学・大阪産大・府立工高専・電々公社・神戸市立工高専・日本住宅公団・尼崎市・姫路市・阪神電鉄・山陽電鉄・銭高組・浅沼組・西松建設・前田建設・大日本土木・竹中土木・清水建設・五洋建設・新日本製鉄・住友金属・日本橋梁・松尾橋梁・駒井鉄工・栗本鉄工・大阪ガス・日本技術開発・日本水道コン・内外エンジニアリング・応用地質調査

4. 入会の資格とその手続きは……………

- 土木の教育をうけ、土木の分野にある人
……………正会員
- 土木系の高校から大学院までに在学中の人
……………学生会員
- 土木工学・土木事業の功績偉大な人
……………名誉会員
- 関西支部の活動を賛助する個人・法人
……………支部賛助会員

入会の手続きは簡単です。一つの職場に会員が10名以上在籍されれば、職場班(本部)として班長が事務を取扱っていますから、班長に申し込んで下さい。本部職場班のない方は土木学会関西支部へ入会申込用紙を請求して、これを記入して支部へ送って下さい。同時に一年分の会費を本部会員課(東京)へ送れば後日入会通知書が届いて会員となります。なお申込用紙に、紹介者の欄がありますが紹介者のない時でも申し込めます。

5. 支部の役員は……………

関西支部の規定により、支部長は毎年交替し、商議員の任期は2年間、幹事の任期は1年間となっています。昭和47年度は、下記の顔振れがお世話させて頂いております。

支部長

柳瀬 珠郎(近畿日本鉄道)

商議員

- | | |
|-------------|-------------|
| 有坂 松樹(京都市) | 稲田 覚(阪神高速) |
| 鶴飼 光夫(工大) | 大橋淳治郎(オリコン) |
| 神田 徹(阪大) | 塩谷 馨(大阪市) |
| 鈴木 伸彦(阪急) | 中条 博之(大成建設) |
| 中北 保次(神戸市) | 西堀 忠信(市大) |
| 西村 昭三(国鉄) | 野沢 太三(国鉄) |
| 浜本富美雄(道路公団) | 藤井 邦和(三港建) |
| 藤田 賢二(近鉄) | 松永 一成(大阪市) |
| 峯 健二(中央復建) | 村本 嘉雄(京大) |
| 山野 繁行(春本鉄工) | 明石外世樹(立命大) |
| 磯久 礼志(和歌山県) | 川崎 健次(鴻池組) |
| 木畑 稔裕(問組) | 古賀 太郎(三菱重工) |
| 近藤 信昭(関電) | 佐野 幹夫(福井県) |
| 田淵 和人(京都府) | 月野 弘(阪神埠頭) |

- | | |
|-------------|-------------|
| 中岡 芳次(清水建設) | 中谷 亘(大阪工専) |
| 名須川 淳(地建) | 福本喜一(オリコン) |
| 三品 武司(奈良県) | 三谷昭一郎(東洋建設) |
| 三露 嘉郎(兵庫県) | 篁 源亮(神大) |
| 山路 文夫(阪産大) | 吉川 和広(京大) |
| 吉川 弘(大阪府) | 渡辺 恭平(滋賀県) |

幹事長

後藤 尚男(京都大学)

幹事(庶務)

- | | |
|-------------|-------------|
| 柳田 保男(建コン協) | 岡村 宏一(工大) |
| 白石 成人(京大) | 宮越 義暉(関電) |
| 村上 正(大阪市) | 山本武四郎(道路公団) |

(会計)

- | | |
|------------|-------------|
| 小藪 泰明(大林組) | 今井 宏典(阪神高速) |
| 利田 春男(京都市) | 永井 重光(兵庫県) |
| 中谷 忠男(川重) | 中村 五郎(神戸市) |

山家 馨(ピーエス)

(企画)

- | | |
|-----------|-------------|
| 村岡 浩爾(阪大) | 大家 康熙(修成建設) |
| 玉置 清(地建) | 中井 博(市大) |
| 中野 坦(近大) | 藤田 賢二(近鉄) |

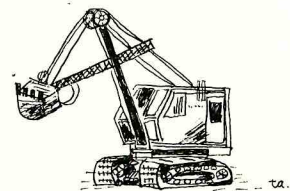
(計画)

- | | |
|------------|-----------|
| 川畑 博信(大阪府) | 枝村 俊郎(神大) |
| 絹川 治(公成建設) | 志茂山保夫(京阪) |
| 高棹 琢馬(京大) | 西村 昭三(国鉄) |

事務局

- 坂上 隆正……総務・役員会・委員会担当
- 西川 勝子……テキスト・資料・賛助会員
- 村上千鶴子……行事・経理担当
- 松田 佳子……名簿・支部だより担当

<文責 大家 康熙>



会員通信欄

列島改造の幕明け、情報のますます多様化されようとする今、会員の皆様は学会にどのような関心をお持ちでしょうか。当関西支部で、最近調査しました二つのアンケート結果からは、次のような集計が得られております。

① 学会行事の参加経験、および評価

種類	経験	「よい」 「普通」	「知らない」 「わからない」
年次学術講演会	11%	—	—
研究会	5	59	32
講演会	23	77	14
講習会	42	79	11
見学会	10	71	18
映画会	8	58	27
その他	1	45	45

② 希望する講習会テーマ

土質・基礎 (20%), 公害・災害の科学 (12%), 工事計画・施工管理 (18%), 河川・港湾の水理 (9%), 構造解析・設計関係 (15%)

%), 都市・交通計画 (7%), 土木法規等の解説 (14%), 衛生工学 (5%)

上表以外の自由意見として、電算利用、環境保全、高速道路、海洋土木、工事と補償、情報システム等の希望テーマがありました。

アンケートに集約された特色としましては、行事・講習会のいずれの場合も、技術的ボトム・アップを望む声が極めて多く、土木全般にわたった希望講習テーマも、内容的には専門に深入りせず、「基礎的・入門的」程度が要求されており、講習形式は演習スタイルに人気があります。

もともと技術は、さまざまな関係に囲まれた「生産の場」において具体的となるのであり、変動の70年代社会に生きる技術者は、絶えず自己開発を必要とします。かようなとき支部はいよいよ会員の声を反映すべく、科学と技術、アカデミズムと現場のかかわりをどのように止揚してゆくかが、今後の課題でありましょう。第2号以降の本欄への会員皆様の御投稿をお待ちします。

<文責 中谷 忠男>

編集後記

今回「支部だより」を会員の皆様にお届けすることになりましたが、この小冊子の目指すところは土木学会関西支部の会員の声を直接聞き、現代に即した支部を創り上げることにあります。

「支部だより」は未だ確定した表題ではありませんので会員の皆様の御意見をお聞かせいただきたいと存じます。「支部だより」を刊行しようという計画は今年度の支部幹事会で検討され、支部商議員会で承認された本年6月より編集作業が進められてきました。編集業務は幹事会の計画、企画、庶務、会計担当幹事会の中より分担者を決め、川畑幹事が主査となって進められました。創刊号ではまず支部のこれまでの動静と行事・業務報告を取り挙げておりますが、この小冊子でも折に触れ、今私共が当面している問題が指摘されております。これらに、現実にもどのように対処すべきなのかを考える場として、この小冊子を役立てたいと希望しております。

当関西支部は、その発足時よりユニークな存在としてその発展に努力が払われて参りました。現在、支部の問題はさまざまな立場から数多く指摘されておりますが、就中 (i) 支部行事の企画を如何に行うべきなのか、(ii) 支部と会員とを結ぶ「支部だより」はどのようにあるべきなのか、(iii) 支部の年次学術講演会はどのように改善されるべきなのか、(iv) 学生会員の声をどのように生かすべきなのか、(v) 会員と支部との緊密な関係はどのようにすれば実現されるのか、等が支部にとって極めて重要な問題であります。

しかし、こうした問題は必ずしも土木学会関西支部特有のものではなく、その由来する所は現代社会であるとも考えられます。最近ひろく言われているテクノロジー・アセスメントをわれわれの問題として考えたいと思います。この「支部だより」は原則として年2回の刊行の計画であり、次号は明年2月に編集作業を開始し、5月に発行する予定であります。会員の皆様からの御意見をお待ちしております。

<文責 白石 成人>